

NDC 体系へのトピックスの導入の検討 —赤木かん子式を素材に—

Introducing Topics into the NDC System —Case Study by AKAGI Kanko Method—

川瀬綾子† 北克一††

KAWASE Ayako† KITA Katsuichi††

要旨：NDC分類体系へのトピックスの導入等について考察する。素材として、赤木かん子が提唱する「赤木式分類法」を対象とした。「赤木式分類法」は学校図書館を念頭に、原則はNDCに依拠しつつ、小・中学生を対象とした分類法の提案である。なお赤木は、分類法の提案と共に、「イラスト分類シール」を開発し、頒布している。併せて、検討の対象とする。

キーワード：NDC、トピックス、分類シール、学校図書館

Keywords：NDC、Topics、Classification Seal、School Library

1. はじめに

本稿では、NDC 分類体系へのトピックスの導入等について考察する。素材として、赤木かん子が提唱する「赤木式分類法」を対象とした。「赤木式分類法」は学校図書館を念頭に、原則はNDC9版に依拠しつつ、小・中学生を対象とした分類法の試みと主張している。

なお、巻末の別紙1「赤木式分類法」は、「赤木かん子の図書館員ハンドブック：分類のはなし」¹をもとに、NDCの体系により、赤木式分類法を再構成したものである。

最初に赤木式分類方式の特徴を列挙し、それがどのように提案、実行されているかを、具体的にその著作を参照して検証を進める。

2. 赤木式分類法の特徴

赤木式分類法の特徴は、次と考える。

(1) 原則はNDCに依拠しつつ、小・中学生を対象とした学校図書館の「分類」を考える、としつつも対象の内実は小学校図書室である。

(2) 教育課程(例えば小・中学校では教科「理科」)において、高等学校のように物理と化学は分離していない)や、利用者特性(こどもたちの利用動向)を「根拠」に、NDC体系を一部「合体」、一部「移動」な

どを行い、体系を変更する。

(3) 利用者の年齢層や利用動向(明確な根拠は示されていない)をもとに、大胆な「短縮形(合成合体)」を実行提案する。

例：

- 91 日本文学
- 911 詩・ことば遊び
和歌、短歌、俳句、川柳
近代詩、現代詩
- 912 戯曲→769 演劇・歌舞伎・能・狂言・ダンスへ
(以下、略)

例では、NDC9類の「911 詩歌(日本文学)」において、「807.9 言語遊戯(言語教育)」を主客反転した上で、「911 ことば遊び」に移動している。

- 807 研究法. 指導法. 言語教育
- .9 言語遊戯

*特定の言語に関するものも、ここに収める 例：クロスワード パズル

ここで主客反転とは、本来の「807.9 言語遊戯」は、「807 研究法. 指導法. 言語教育」の下位区分であるから、言語教育論は教育者の観点の主題である。これを、児童・生徒たちが楽しむ「ことば遊び」

† 立命館大学

†† 大阪市立大学

へと主客を反転させている。

(4) 一般的な NDC の分類記号ラベルと共に、「赤木式分類法」に対応させた「イラスト分類シール」²を考案し、装備することを提案する。

(5) 「ダブルイラスト分類シール」の活用法、として次のような提案をする³。

*下のシールを配架において優先する

例 1：伝記のジャンルの内、科学者の本
配架は「289 伝記」の書架

科学者のシール
289
伝記のシール

(6) 「核」、「戦争」、「郷土資料」を別置する。別置の根拠は示されていない。「郷土」の別置については、多くの学校図書館や公立図書館で実行されている。通常は、図書だけでなく、パンフレットや写真等さまざまな資料と共にコーナーを作る。

「核」、「戦争」の別置については、後に改めて検討する。

以上が「赤木式分類法」の主な特徴である。以下に、順次に検討を進める。

3. 小学校低学年でも使える学校図書館

赤木は「1年生でもわかって楽しく使える図書館、でなければならない」、と主張する⁴。そのために考え出したのが、「イラスト分類シール」である。そして「ビジュアルのいいところは、いちいち説明しなくても、大体の見当はつく、ということです。たとえば、音楽の本の背にトーン記号(原文では分類シールの絵)の絵を貼っておけば、説明されなくとも、これは音楽の本なんだな、と思ってもらえる⁵」、と主張する。

そして赤木式分類法と並行して、独自の棚配置、配列、別置を導入している。以下、NDC の類に従いその実際を検討、評価する。

4. 0類 総記

「0」は「図書館情報学」と「郷土資料」です。なので、全体としてレファレンスブック⁶、および百科事

典でいいのですが、困ったことに、ここに雑学も入ってしまう⁷と問題点を提起し、雑学関係資料に対して、「エンターテインメント総記」という別置シールを作成している。これによって、「0 類 総記」は百科事典、及び、別置のエンターテインメント資料⁸に分かれる。ここでのエンターテインメント資料という概念は、明らかに一つのトピックスである。

なお、図鑑はレファレンスブックに入れずに、例えば、植物図鑑であれば「470 をつけて植物の総記にしてしまう」と提案している。事由として、「植物の本が「0 総記」、「4 自然科学」、「6 産業」の3カ所に分散するから、と述べる。

しかし、これは誤解である。「0 総記」の「03 百科事典」に分類される資料は、主題を限定しない総合百科事典である。

「4 自然科学」においては、植物事典は「470.3 植物学事典」である。

また、「6 産業」においては、「603 レファレンスブック」は産業全体の「産業事典」のような資料であり、「610 農業」においては「610.3 農業百科」のような資料である⁹。

さらに、赤木式分類法は NDC9 版を前提として展開しているが、NDC10 版を底本として改訂するならば、「007 コンピュータ、ネットワーク」を追加しておく必要がある。

5. 1類 哲学、心理学、宗教

1類は、「哲学」、「心理学」、「宗教」が同居している。赤木は、10-15は「心の問題」(哲学、心理学)として、「心の問題」シールを提案している¹⁰。

ただし、「148 占い」は「心の問題」という概念群とは異なるとして占い専用シールを採用している¹¹。なお、教科「15 道徳」への対応も必要であろう。

また、「16 宗教」は、日本の宗教なら「日本の暮らし」(380-387)へ、外国の宗教なら「世界の暮らし」(世界の歴史、宗教)として、「209 世界の歴史」への区分を提起している¹²。類をまたぐ大胆な移動提案である。

6. 2類 歴史、地理、伝記

2類全体について、「歴史＝なにがあったの?」、「地理＝どこであったの?」、「伝記＝だれがやったの?」¹³と解説した後、歴史、地理、伝記に入る。

6.1 歴史

歴史では、「21 日本史」、「22 アジア史・東洋史」...と第一区分は地域別であることを示す。次に「21 日本史」を例に、「211 北海道地方」、「212 東北地方」...と日本地方区分(赤木は、荒っぽく「地理区分」と呼ぶが)が続くことを示す¹⁴。

そして、時代区分は「210.2 原始時代」、「210.3 古代 4世紀-1192」...を示し、第三次区分に時代区分がくることを指摘する¹⁵。

しかし、と言葉を継いで「小・中・高の歴史は地理区分よりも、まず時代」と強調する¹⁶。しかし高等学校の学習指導要領では、「地理歴史編」であり、高等学校まで含めての言及は勇み足である。

続けて、「小・中学校では、(中略)たいていの本は1冊の中に、違う時代が3つも4つも一緒に入っている」と述べ、「小・中学校は「21 日本の歴史」、この分類1つで十分」と結語する¹⁷。

しかし、小学校の学校図書館ならともかくも、中学校段階の「歴史」を「21 日本の歴史」1つとして、時代区分を省略することは、学習指導要領等に照らしても、疑問が残る。例えば、「日本の歴史」、「昭和の時代」という主題が混配されることになる。

分類法の原則としては、「特殊から一般への列举」が望ましい。すなわち日本歴史一般が先行し、各時代の日本歴史が配列されるのが望ましい。また、複数の時代を収めた資料は、通常は、先頭の古い時代区分を採用して配列する。

6.2 地理¹⁸

次に「29 地理」についても、「小・中学校なら日本と世界で分ければ十分」¹⁹とする。なお、「日本の歴史」以外は、「世界の暮らし」として、歴史も宗教も一体化している²⁰。

また、「世界の地理」は、「国旗・国歌」の分類シールの下に集める。しかし、地理概念は「国旗・国歌」に象徴される政治的区分のみでなく、例えば自然地理なども含まれる。しかし、上記の「歴史」と同様に中学校段階では、「291 日本」、「292 アジア」...程度の地理区分は必要ではないだろうか。

さらに、多文化共生社会が推進される中、特定の文化・言語圏などの出身者が一定の比率を占める地域の学校においては、そうした地域の歴史、地理等

への配慮もしておきたい。

なお、「自分の県は郷土シールを貼って、郷土におきます。」と別置記号の使用と資料別置を進めているが、書架案内への配慮も述べておくとなお丁寧なガイドとなる。

また、「202.5 考古学」を独立して分類シールを作成している²¹。なお、言語については8類という注がある。

6.3 伝記

次に「28 伝記」である。赤木は二つの方法論を紹介する²²。

第一は、伝記分野の資料だけで数百冊もある大きな図書館では、「28 伝記」の資料群を、さらに0~9分類する方法である。「40 自然科学者」、「41 数学者」、「42 物理学者」のような展開である。ただ、伝記分野だけで数百冊を所蔵する小・中学校はまれであろう。

第二の方法は、NDC9版の「289 個人伝記」の第一注記の流用である²³。当該の注記を引用で示す。

289 個人伝記

*ここには個人(2人をも含む)の伝記および伝記資料一切を収める；ただし、哲学者、宗教家、芸術家、スポーツマン、諸芸に携わる者および文学者(文学研究者を除く)の伝記は、その思想、作品、技能などと不可分の関係にあるので、その主題の下に収める 例：134.4 ヘーゲル、188.42 最澄、762.346 シューベルト

このようにNDC9版では、主題の下に収める被伝者の活動分野を、哲学者、宗教家、芸術家、スポーツマン、諸芸に携わる者および文学者(文学研究者を除く)に限定している²⁴。

しかし、赤木は「NDCにあるように、小さい図書館では、キュリー夫人は物理・化学に、モーツァルトは音楽に、アンリ・ファーブルは昆虫図鑑にいつでもらうとすっきり落ち着きます。」²⁵と述べる。

独自の方法を提起することはかまわない。しかし、「NDCにあるように」は事実と相違する。例示している「キュリー夫人は物理・化学に」は、NDC9版の「289 個人伝記」の第一注記に従えば、物理・化

学ではなく、「289 個人伝記」に収められる。

「アンリ・ファールは昆虫図鑑にいらおう」とあるが、赤木式分類においては、昆虫記は「486 昆虫」であろう。

さらに、「そうすると、後に残るのは軍人と政治家だけになるので、お隣の日本の歴史と、とても仲良くおさまる」²⁶に至っては、論旨の飛躍がある。この結論が成立するためには、逆に「軍人と政治家以外の者の伝記は、当該被者の活動分野に収める」という「指示」が必要である。キュリー夫人以下の3件の例示からだけでは、それは読み取れない。

逆読みをすれば、「後に残るのは軍人と政治家だけ、」となると歴史とは政治史、軍事史となる。それだけでよいのか。どうにも論旨の展開が荒い。

6.4 ダブルイラスト分類シール

「内容を2つ表現したい場合、分類類シールを貼る」²⁷という方法を紹介している。引用で示す。

例1：伝記のジャンルの内、科学者の本²⁸
配架は「289 伝記」の書架

科学者のシール
289
伝記のシール

例2：音楽のジャンルの内、伝記の本
配架は「760 音楽」の書架

伝記のシール
760
音楽のシール

このように、分類記号の上下にイラスト分類シールを貼り、下のイラスト分類シールを優先として資料の配架を行う方式、という提案である。

一見、分類重出の試みのようにも見えるが、異なる。提示されている事例を参考に考察を進める。

例1では、資料は「289 伝記」の書架にある。上段の「科学者のシール」により、伝記の資料群の中

で、科学者の伝記を固める作用はあろう。

しかし、先述「6.3」の中で、「そうすると、後に残るのは軍人と政治家だけになるので、お隣の日本の歴史と、とても仲良くおさまる」、という発言に基づけば、「289 伝記」には軍人と政治家の伝記しか配架されないはずである。実際には、両者の経歴を持つ人物は多い²⁹。粗雑な議論が展開されている。

例2では、音楽資料の書架に配架される。資料の上段のイラスト分類シールにより、当該の資料が伝記であることを表現している、ことになる。

NDC9版では、「762 音楽史、各国の音楽」の第1注記に「*地理区分」の指示がある。さらに、「762.8 音楽家<列伝>」の第1注記の後段に、「個人の場合は、主な活動の場として認められる国、もしくは出身国により地理区分」の指示がある。

伝記というジャンルと各種の主題ジャンルが、錯綜していることを表現しているのみのイラスト分類シールの二段貼りではないだろうか。

7. 社会科学

7.1 「31 政治」、「32 法律」、「33 経済」

「3 類 社会科学」では、「31 政治」、「32 法律」は、NDCの第2次区分の通りである。「33 経済」、「34 財政」を、「お金にかかわるものはここ！財政の本は小学校にはありませんが。」³⁰と「33,34 経済」としてたたんでいる。

しかし、小学生向けの財政資料には、例えば池上彰著『池上彰のこれだけは知っておきたい！消費税の仕組み』（全3巻）ポプラ社、2014年や大野一夫著『改訂版 イラストで学べる税金のしくみ 1 税金とはなにか？』汐文社、2016年等が出版されており、勇み足である。

続けて、「「35 統計」は調べ物の本と一緒にしたほうが使いやすいので」と言い、「0 類 レファレンスブック」へ分類している³¹。なお、NDCで「350 統計」の注記「*地理区分」は採用していない。小学校段階では、日本に関する各種の統計の範囲に資料内容が収まる、ということであろう。

7.2 「36 社会」

「36 社会」では、第3次区分を紹介し、内容が複雑と述べる。そして、「実際「36 社会」は最後まで苦しみ、ここができたときに私の学校図書館は

完成しました。」³²と、感慨を披露している。

赤木式の結論は、次である。

「36 社会」の資料群を、「学校図書館として必要なものを抜き出し」て、2点に集約した。第一は、「仕事」、第二は「公共サービス」(364-369)である³³。

ここで、「仕事」という概念は、事象(トピックス)であり主題(サブジェクト)ではない。NDC という主題索引体系の第二次区分に、事象(トピックス)を持ち込んだ明白な事例である。

そして、両者に収容されない主題は、「日本の暮らし」(380-387)、及び「心の問題」(10-15)へと振り分ける。

なお、「心の問題」(10-15)は、下位区分として「老人」、「死」、「危機管理」(性的・心理的・肉体的な虐待)という 3 つのトピックスを展開している。しかし、小学校等の学校図書館の児童・生徒を対象とした資料にこうした主題があることも想像し難い。もし資料があるとすれば、児童・生徒自身の「性的・心理的・肉体的な悩み」であろう³⁴。

また、「心の問題」の関連主題として、「ボランティア・手話・点字」(盲導犬、聴導犬を含む)を提示する。同じく関連主題として「ハンディキャップ」を展開する³⁵。なお、「病気になった話はここ!」と「ハンディキャップ」に含む、と指示している。しかし、一般に「闘病記」は、「医学」隣接テーマではないのだろうか？

7.3 「37 教育」

赤木は、「「37 教育」はそのまま」と断じている。2012 年刊行の同書、NDC9 版を底本とした限界があろうが、今日的には「375 教育課程. 学習指導. 教科別教育」の「<.3/8 各教科>」の下に、情報教育の枠追加は必要であろうし、「道徳」、「公民」の語彙も望みたい。

7.4 「38 風俗」

380 は、風俗習慣. 民俗学. 民族学である。

赤木は、「日本の暮らし 380-387, 389」を提案している³⁶。しかし、「389 民族学」は「日本の暮らし」に範囲のみを対象とする研究ではない。対象を広く地球上の全体世界へとしている³⁷。

根底には、柳田国男・折口信夫等を筆頭とする日本の風俗習慣を民俗学と理解し、後発の梅棹忠夫を

筆頭とする民族学との外延、内包の論議がある³⁸。

いずれにせよ、「389 民族学」を「日本の暮らし」に包含するのは無理がある。「389 民族学」は独立して扱うべきであろう。

「388 民話」は、「日本の民話」と世界のものに区分している。そして世界のものは、「ヨーロッパ・ロシアの民話」、「中国・アジア・中近東の民話」、「北米の民話」、「南半球の民話」に細区分している^{39, 40}。文献的根拠と類推する。

なお、「39 国防. 軍事」は、「戦争」でまとめている。後に、改めて検討する。

8. 4類 自然科学

「4 自然科学」、赤木が力を込めて論じている類である⁴¹。

8.1 自然科学、物理学、化学

「物理」と「化学」は、「日本の小・中学校では、まだこの 2 つは分かれていません。従って、本も内容が mix になっています。」と述べ、「42, 43 物理・化学」を提案している。ここまでは、論旨が通っている。しかし、「ついでに 40 も、もしあればここに」と続けて、「40, 41, 42 物理・化学」に併合している。

小・中学校では、「40 自然科学」に関しては、該当主題の資料をほぼ所蔵しないという事由であれば、その旨を明確にすべきであり、「ついでに」という奇妙なレトリックは避けるべきであろう。

8.2 算数(数学)

「数学 410」は、「小学校では「算数」、中学校以上は「数学」と切り出す。そして、下位区分の「411 代数学」以下の区分について、「小・中学校ではここまでいらないでしょうか？」と問いかけ、「だから算数は41で分け止めです。」と結論付けしている。

ここにも論理展開のトリックが進行している。「小学校では「算数」であり、第3次区分までは不必要である、という論旨は理解ができる。

しかし、中学校以上は「数学」である。幾何学と代数学が登場する。なのに、「小・中学校ではここまでいらないでしょ？」と、唐突に小学校と中学校を同一にして、「算数は41で分け止め」と断言している。無意識の論理のすり替えではないだろうか。

8.3 天文学. 宇宙科学

「44 天文学」は、「宇宙」と「地球」です」と導入部を開始し、NDCの3桁までを紹介しながら、「小・中学校では”さんけため”まで分ける必要はないでしょう？」と明確な根拠を示さずに、「だから「44 天文学」と結論を提示する。

今まで見てきたように、明確な根拠が示されない個所では、親しみを込めた疑問文が顔を出す。そして、実質は小学校について論じていながら、「小・中学校では」というフレーズでまとめてしまう。注意をしておきたい。

なお、小学校段階においても資料の全体量との関係を見つつ、「44 天文学」を「443 宇宙」、「444 太陽系」とする道は残しておきたい。

8.4 「45 地学」

「450 地球科学. 地学」では、「452 海洋学」、「454 地形学」、「455 地質学」、「456 地史学. 層位学」、「458 岩石学」、「459 鉱物学」を一体として、「45 地学」でまとめている。

「451 気象学」を「45 気象」として独立させる。

「453 地震学」は、「453 防災」として扱う。ただ、防災とした場合の主題は、地震災害のみならず、台風、雪害等の他の自然災害への対処も包含されるが、これについての言及はない。

そして、「457 古生物学. 化石」は、「恐竜」のイラスト分類シールを貼る⁴²。

8.5 「46 生物科学. 一般生物学」

「46 生物科学. 一般生物学」では、NDCの第3次区分を紹介しつつ、「ここも”ふたけた”まで分ければ十分」として、「46 一般生物学」で留める⁴³。実践現場での、資料点数が背景にあるのであろうか。

8.6 「47 植物学」

「47 植物学」では、「470 植物学」、「471 一般植物学」、「472 植物地理. 植物誌」に「470.3 植物図鑑」を加えて、「47 植物図鑑」のイラスト分類シールを与えている。

そして、「473-476 菌類」でまとめている。さらに、「477-479」を「草・花」と「樹木・林業」に二分している⁴⁴。6類に属する林業との合体については、6類で扱う。

8.7 「48 動物学」

「48 動物学」では、「480 動物学」、「481 一般動物学」、「482 動物地理」を「480-482 動物図鑑」として集約している。学校図書館では妥当なまとめ方と考える。

8.7.1 「483 無脊椎動物」

続けて、「483 無脊椎動物」は単独で独立させる。

「484 軟体動物. 貝類学」は、「484 軟体動物」とするも、「484.9 棘皮動物」(ウニ、ナマコなど)は、軟体動物ではないので、独立させている。

続いて、「485 節足動物」を採用する。なお、「海の生物」のような資料への対応として、「483-485 変温動物図鑑」というイラスト分類シールを作成している⁴⁵。

「486 昆虫」は節足動物の中でも昆虫は種類が多く、資料類も多いので、細かく区分をしている。

「486.1-2」は、「昆虫図鑑」、「486.3 有翅類」(トンボなど)、「486.4 直翅類」(カマキリ、バッタなど)、「486.5 カメムシ目(半翅類)」(セミなど)、「486.6 甲虫類」(カブトムシ、ホタルなど)、「ハチ目(膜翅目)」(アリ、ハチなど)、「486.8 チョウ目」、「486.9 ハエ目」(アブ、カ、ハエなど)と細分を進めている⁴⁶。

しかし、概念分類としては理解できるが、小・中学校段階で、ここまでの細区分が必要かについては、教育課程や学校図書館の文献的根拠として幾分の疑問が残る。

8.7.2 「487 脊椎動物」

「487 脊椎動物」はNDC9版に従い、「487.4-7 魚類」、「487.8 両生類」、「487.9 爬虫類」に分けている⁴⁷。

なお、「実は生物(微生物以上)は、無脊椎、脊椎で分けられるんです。でもNDCでは、無脊椎動物は483を指す言葉になってしまっています。変だなあと思った人、これは昔の博物学なのでご勘弁ください。」⁴⁸と「488 鳥類」、「488 哺乳類」も脊椎であることを指摘している。

しかし、自らが引用している「480 動物学」の第3次区分を見れば、脊椎動物、鳥類、哺乳類は、記号法上は並列してはいるが、項目名辞のインデクションにおいて、鳥類、哺乳類の下位区分であることを

示している。

勘違いした指摘を行うのではなく、ここでは記号法は概念の階層性を反映していない場合に使用される、項目名辞のインデクションの意味を説明するべきである。同書の改訂時には、修正を望みたい。

8.7.3 「488 鳥類」

「488 鳥類」は、シンプルに「488 鳥類」を採用、細区分をしていない。文献的に理解できる。

8.7.4 「489 哺乳類」

「489 哺乳類」は細かく細区分している⁴⁹。哺乳類一般は、「480-481 動物図鑑」へ案内している。以下、細区分を列挙で示す。「489.2 単孔目」、「489.3 有袋目」、「489.4 食虫目」、「489.5 食肉目」、「489.6 クジラ目」、「489.7 ゾウ目」、「489.8 蹄目」、「489.9 霊長目」である。

ただし、7.7.1 「483 無脊椎動物」で指摘したように、ここまでの細区分が必要な文献的根拠に疑問が残る。

なお、「人類は、一般生物学か、人体の仕組みか、考古学へ」と導いている。しかし、NDC9版には「469 人類学」が存在している。「469 人類学」を採用せず、「460一般生物学」まで上位概念に区分するのは理解に苦しむ。

また、人体の仕組みは、医学(49)であろうし、考古学は原始・古代の歴史学であろう。

8.7.5 「49 医学」

赤木式分類法では49 医学は「49 人体の仕組み」、「495 性教育」、「497 歯」の3区分を提起している⁵⁰。なお、「496 眼・耳・鼻」は独立していないので、「49 人体の仕組み」に分類することになる。ここでは「497 歯」に替えて、「498 健康」として、「496 眼・耳・鼻」、「497 歯」をも包含してはいかがであるうか。

9. 5類 技術. 工学

9.1 「51, 52 建築」

「5類 技術. 工学」の先頭は、「51 建設工学. 土木工学」と「52 建築学」を合併して、「51, 52 建築」としている⁵¹。

ただし、「51 建設工学. 土木工学」の内、「518 衛

生工学. 都市工学」にゴミ問題、「519 公害. 環境工学」に環境汚染があるので、この2つを合体して、「519 環境問題」へと分類している⁵²。

9.2 「53 機械工学. 原子力工学」

「53 機械工学. 原子力工学」では、「53 機械工業」、「53 核」の2件を立てている。「53 核」は、赤木式では「永久別置」⁵³である。「永久別置」については、後に改めて取り上げる。

9.3 「54 電気工学」～「58 製造工学」

「54 電気工学. 電子工学」、「55 海洋工学. 船舶工学」、「56 金属工学. 鉱山工学」、「57 化学工業」、「58 製造工業」をまとめて、「54~58 工業. 産業」としている⁵⁴。

なお、「兵器」は分離し、「戦争」のイラスト分類シールを与え、「永久別置」としている⁵⁵。「永久別置」については、後に改めて取り上げる。

また、「55」の中の海洋工学を、「水・資源」として独立させるか、「468 生態系(学)」に入れる別法も示している。概ね、頷ける展開である。

9.4 「590 家政学. 生活科学」

「590 家政学. 生活科学」については、「家政学って工学なの! だからNDCの数字の順に並べると見つけられない」⁵⁶、と述べて、「591~595, 597, 598」を、「375.5 家庭科・手芸・ファッション」へと導いている⁵⁷。

概ねは同意できるが、小学校段階においては、教科技術家庭科で、情報教育が始まることへの対応が必要である。

「375.5 家庭科・手芸・ファッション」の書架案内に、「情報技術、情報リテラシー → 「007 コンピュータ. ネットワーク」の案内をだす方法もある。

残った部分では、「596 料理」を独立させている。なお、別法として、「596 料理」は料理法、レシピ本等に限定して、別途、「食育」を独立する方法も示している⁵⁸。しかし、「食育」は育成側からの視点である。子ども目線からの分類を推奨する赤木式とは違和感がある。

なお、「599 育児」の名辞を「子育て」としている、一方、「性教育」の棚と合体の別法も提示している。

10. 6類 産業

10.1 「60 産業」

「6類 産業」では、産業総記にあたる「60 産業」は、5類の「54~58 工業・産業」と合体させている⁵⁹。

10.2 「61 農業」と「62 園芸」

「61 農業」と「62 園芸」はまとめて、「61,62 農業・園芸」としている⁶⁰。なお別法として、「米」に関する資料が多ければ、「616.2 稲作」を独立させる方法も示している⁶¹。

10.3 「63 蚕糸業」

「63 蚕糸業」は、「486.8 チョウ」へと吸収させている⁶²。「蚕糸業」の産業でのウェートを考えると、妥当であろう。

10.4 「64 畜産業. 獣医学」

「64 畜産業. 獣医学」は、イラスト分類シールを「畜産」と「ペット」に分け、共に「動物 48」へと導く⁶³。

さらに、「647 みつばち」は養蜂業なので、「486.7 アリ・ハチ」へと送る⁶⁴。産業としての「はちみつ製造業」が、生物分類に包含しているのが疑問を感じる。

一般的に、想起するのは「647 みつばち」ではないし、生物の「アリ・ハチ」でもなく、食品としての「ハチ蜜」ではないのか。

「65 林業」はそのまま、としている。ただし、イラスト分類シールは「樹木・林業」である⁶⁵。

「669 製塩. 塩業」について、「水産にいれる？」と疑問を投げかけ、「小学校なら料理か食育でしょう」、と断定する⁶⁶。「596 食品. 料理」の一部であろう。なお、製造側であれば、「54~58 工業. 産業」中の食品産業となる。

10.5 「67 商業」、「68 運輸」

「67 商業」、「68 運輸」について、「子どもの本では花畑で花をつんで運び、花屋さんに卸して売るまで、がセットになっているので、商業と運輸がうまく分けられない」、と自論を展開し、「67,68 商業・運輸」のイラスト分類シールを提案している⁶⁷。

なお、「乗り物」関係は「機械工業」か、「のりも

の」へのガイダンスがあるが⁶⁸、「機械工業」は一般的すぎるし、「のりもの」は対象の交通手段で分散する。ただし、「乗り物には、船も飛行機も入ります」の注が付されている⁶⁹。「機械工業」、または、「のりもの」への誘導の根拠は示されていない。トピックスの挿入が破綻している箇所ではないだろうか。

10.6 「689 観光事業」

「689 観光事業」については、「36 仕事」へと集約している⁷⁰。しかし、「36 仕事」は、自営業、個人の就労関係の多様な雇用関係等を含む範囲がある。

また、「689 観光事業」では、行政、地域住民、NPO等による地域おこしなどの動向もある。今一度、丁寧な見直しが必要である。

10.7 「690 通信事業」

「690 通信事業」では、「信じられないほど古い」、と指摘しながら、「通信・マスコミ」へ案内している⁷¹。

11. 7類 芸術・美術

11.1 美術と「726 漫画」

「7類 芸術・美術」では、「70~75は全部美術系」と一端は指摘する⁷²。しかし、「726 漫画. 挿絵. 童画」を、漫画に力点をおいて「これは美術から分けたい！よね？」とイラスト分類シールの「コミック」を提示している。

「コミック」の分類記号の指示はないが、別置の提案もないことから、「726」のままで「美術」のイラスト分類シールとで棲み分けるのであろうか。

また「726 漫画. さし絵. 童画」の内、童画⁷³、さし絵は「美術」のままと推測される。

11.2 「728 書道」

「728 書道」について、「これはもちろん芸術に決まっています。ですが、本の配置場所としては国語のほうがしっくりする」として、「日本語」に合体することを提案している⁷⁴。独自の視点である。

11.3 「730 版画」、「740 写真」、「750 工芸」

「730 版画」、「740 写真」、「750 工芸」は、全体を美術とする。ただし、何点かの例外扱いを提示する。

(1) 「750 工芸」の中で、「子どもたちがなにかをつくるのに使う本は「375.72 工作」⁷⁵。

(2) 「折り紙は「754 木竹工芸」に入っています。それと、あやとりが「798 室内娯楽」に入っているのです。「折り紙・あやとり」という別置をつくりました」と、イラスト分類シールを提案している⁷⁶。

しかし、「754 木竹工芸」の注記では、「紙細工(小・中・高等学校)→375.72(図工・工作、美術教育、造形芸術)の「を見よ参照」がある。

また、「798 室内娯楽」の分類小項目名は存在せず、関連分類項目名は「歌かるた」以下を列挙しているが⁷⁷、「あやとり」はない。なお、関連索引に「あやとり 798」がある⁷⁸。

(3) 「そして子どもたちがつくりたくない、見るだけ、の伝統工芸は「美術」でも「日本の暮らし」、どちらでもいいでしょう」と述べている。

この二者択一の提案であるが、「日本の暮らし」に収容される資料の概念規模が、相当に広すぎるのではないだろうか。

11.4 「760~768 音楽・邦楽」

「76 音楽」の内、「760~768」を「音楽・邦楽」として一括している。

「769 舞踏、バレエ」は、「769 演劇、歌舞伎、能、狂言、ダンス」として集約している。

11.5 「778 映画」

「778 映画」は、「小学校の映画は大部分がアニメーションだから」⁷⁹、独立させ、「778 映画・アニメ」のイラスト分類シールを用意している。

今後の電子教科書、電子教材の教育現場への普及を考えれば、動画、音声コンテンツが、「778 映画」という区分のみで充足するかが問われよう。

11.6 「779 大衆演芸」

「773 能楽、狂言」、「774 歌舞伎」、「779 大衆演芸」は、「769 演劇・歌舞伎・能・狂言・ダンス」に集約している。

また、「落語は、「913.7 笑い話・落語・講談」へ」⁸⁰、と集約している。

さらに、「779.3 奇術から、手品は「794-798 囲碁・将棋・室内ゲーム」へ」⁸¹、と移動させている。

11.7 「780~785, 788, 789 スポーツ」

「780~785, 788, 789」を固めて、「スポーツ」、としている。

11.8 「786 戸外レクリエーション」、「787 釣魚、遊猟⁸²」

「786 戸外レクリエーション」の分類項名を「アウトドア(登山を含む)」と変更している。

また、「787 釣魚、遊猟」の分類項目名から遊猟を除いて、「釣り」と変更している。小学生等に、趣味の狩猟は必要がない、という判断である。

いずれも、理解できる変更である。

11.9 「790 諸芸、娯楽」

「790 諸芸、娯楽」は、大きく2つに集約している。伝統的な家元制度のある茶道、香道、花道を、「791~793 日本の暮らし」に集約している。

「794 撞球」、「795 囲碁」、「796 将棋」、「797 射撃ゲーム⁸³」、「798 室内娯楽」を「794~798 囲碁・将棋・室内ゲーム」としてまとめている。ただ、室内ゲームから「パズル、クイズ」を抜き出し、「クイズ・迷路・なぞなぞ」として独立させている。

11.10 「799 ダンス」

「799 ダンス」は先述の通り「演劇・歌舞伎・能・狂言・ダンス」としてまとめていた。

12. 8類 言語

「8類 言語」は非常にシンプルに変更している。「小・中学校ではドイツ語やフランス語を区別する必要はない」、として「81 日本語」、「82~89 世界の言語」と2区分している。

しかし、小学校課程から英語の必須化が進行する現在では、「82, 84~89 世界の言語」とし、「830 英語」を独立させる必要がある。

また、学校がある地域の事情によっては、多文化共生社会への配慮も求められよう。

なお、「807.9 言語遊戯」は、「911 詩・ことば遊び」として、「91 日本文学」にまとめている。

13. 9類 文学

「9類 文学」では、「91 日本文学」と「92~99 外国文学」に2分している。「388 民話」において、「日

本の民話」、「ヨーロッパ・ロシアの民話」、「中国・アジア・中近東の民話」、「北米の民話」、「南半球の民話」と、細かく区分したのに対して、メッシュがずいぶん荒い。「8類 言語」の項でも述べたが、多文化共生社会への目配りも求めたい。

13.1 「91 日本文学」

「91 日本文学」では、「911 詩・ことば遊び」、「912 戯曲」、「913 小説」としている。「914 評論. エッセイ. 随筆」以降への直接の言及はない。検討を進める。

13.2 「911 詩・ことば遊び」

「911 詩・ことば遊び」は、「911 詩歌」に「807.9 ことば遊び」を合算したものである⁸⁴。

「911 詩・ことば遊び」では、資料を大きく二分している。第一は、和歌、短歌、俳句、川柳という明治時代以前から続く文学形式群である。

第二は、近代詩、現代詩という明治以後の詩歌である。

第一群は、文学形式である。第二群は、詩歌という文学形式に、明治以後という時代区分を持ち込んでいる。

交差分類を起こさないのであろうか。

13.3 「912 戯曲」

「912 戯曲」は、7類で取り上げたように「769 演劇・歌舞伎・能・狂言・ダンス」にとりまとめている。

13.4 「913 小説. 物語」

13.4.1 「913.2~.5 古典文学」

「913 小説. 物語」では、「913.2~.5」を古典文学(江戸時代まで)として、「81 日本語」を与える⁸⁵。結果として、日本語に関する主題と併置される。教科国語の教材としての把握であろう。

13.4.2 「913.6 近代小説」

「913.6 近代小説」(明治以後)については、独自の展開を行っている。

小説のジャンルで、イラスト分類シールを独立させている。第一のイラスト分類シール群は、「ホラー」、「ミステリー」、「SF」、「ファンタジー」のイラ

スト分類シールの独立である⁸⁶。

続けて、「時代小説」、「中国文学」(古典)のイラスト分類シールを作り、独立させている。

区分原理が異なるので、交差分類が危惧される。

13.4.3 「現代古典」

残った資料群に次に、「現代古典」という新規概念の導入を行っている。

赤木によれば、「私はいま、小説の中に携帯電話が出てくるか出てこないか、を一応の目安にして”現代小説”を分けています。つまり、携帯電話が普及する2004年以前は”現代古典”ということになります。」⁸⁷と断言する。

そしてこの「現代古典」を「現代古典・日本文学」と「現代古典・外国文学」に二分したイラスト分類シールを用意している。なお、配架場所は「81 日本語」の隣、と別置を導入している。

さらに、この現代古典に収用した資料群から、次の資料群を「文学でなく、国語の棚の隣におきました。」⁸⁸と述べる。

- ・昭和文学の個人全集
- ・教科書に出てくる本⁸⁹

「913.6 近代小説」において、「現代古典」という概念で別置を行い、さらに第二の別置提案である。

実際に、教科書に出てくる本(著作)を別置することを実行するのであれば、教科国語に限定しても、全学年の教科書のチェックが必要となる。

また、著者の言及は「現代古典・日本文学」及び「現代古典・外国文学」からの別置資料の抜き出しであるが、文脈では小説ジャンルの中の議論と把握される。例えば、エッセイなどの他の文学形式の扱いは不明である。

13.4.4 「現代文学」(ケータイ以降)

最後に「現代文学」である。赤木によれば、「小・中学生に読まれている現実を扱った小説」を、「ヤングアダルト ゴシック体」シールを貼り、別置する⁹⁰。また、ティーンズ文庫用に「ヤングアダルト 筆記体」シールを貼り、これも文庫書架に別置している。

「ケータイ小説」もここに収容しているのであろうか。

13.4.5 「小さな本」の別置

その他の別置も提案している。対象は、「小さな本」である。日本の小さな本と外国の小さな本に分けて別置する案である。他の一般図書の中に紛れ込まないようにとの実践である。

14. 絵本の分類

絵本の分類にも触れている。まず、0類から8類の主題を持つ本は、各主題へ区分することを提案している。赤木はこれを、「とにもかくにも絵本から”個人が創作した物語”以外のものをまず！抜いてください。」⁹¹、と強調している。

そして絵本のタイトルによって、「絵本あ行」、「絵本か行」...のようにイラスト分類シールを貼り、配架する⁹²。

15. 「核」、「戦争」の別置

冒頭で確認した「核」、「戦争」の「永久別置」であるが、別置の理由は不明である。「平和教育」の教材、修学旅行の学習材などであろうか⁹³。

16. 目録の不在

以上、赤木式分類法について検討を進めてきた。ここで同書に「目録」についての言説がないことを指摘しておきたい。

目録の機能、役割などについて言及は避けるが、目録のない図書館機能は考えられない。町の公立図書館などでも「こどもOPAC」が徐々に普及している。

また、文部科学省による平成28年度「学校図書館の現状に関する調査」においても、「蔵書をデータベース化している学校の割合は、小学校73.9%、中学校、72.7%、高等学校91.3%である⁹⁴。

そしてなによりも、現在の子どもたちは、生まれつきのデジタルキッズ世代である。

文部科学省により、教育の情報化施策が推進されている現在、OPACや貸出・返却、予約等の図書館業務システムの導入が強く望まれている。

「誰でも使えるユニバーサル図書館を目指して」と同書の表表紙に記載がある。

ユニバーサル図書館のこどもOPACを考えていく必要がある。

また、視覚障害者に対する配慮について、触れていないのも気になる点である。イラスト分類シール

にブレイルノイエ⁹⁵等による説明を入れることを検討したい。

16. さいごに

本稿で取り上げた赤木式分類法は、『赤木かん子の図書館員ハンドブック「分類のはなし」』を底本とした⁹⁶。

同書では、小・中学校の図書館をという言葉がしばしば出てくる。しかし、本文中でたびたび指摘したように、論じている背後の実態は、ほとんどが小学校図書館である。

なお、たまたま、同著者による簡明なエッセイに出会った。「だれでも使える図書館を作る」^{97, 98}。著者の原点は、小学校図書館であることがよく理解できる。

いずれにせよ、学校図書館の資料組織の在り方と配架法等を顧みる素材として、著者に感謝を申し上げたい。

別紙1 赤木式分類法

0類 総記

0 レファレンスブック

0 エンターテインメント総記(レファレンスブックから、別置する)

007 コンピュータ、ネットワーク

1類 哲学、心理学、宗教

10-15 心の問題(哲学、心理学)

心理学

リアル系=臨床心理学(ケータイ小説を含む)は、別置する

、 「YA は、ケータイ小説をリアルとして読んでいる」は真実?

危機管理 140 は、別置する

現代文学(YA ; ヤングアダルト) 9類は、別置する

*老人は 376 老人問題 ; 死は xxx ;

性的・心理的・肉体的な虐待は 146 臨床心理学

*ボランティニアは xxx、手話・点字は 378 障害児教育

*ハンディキャップ(病気になった話を含む)は 369 社会福祉

**病気そのものは、49 医学へ

148 占い

16 宗教

日本の宗教→日本の暮らし 380-387

外国の宗教→世界の暮らし(世界の歴史、宗教) は 209 世界の歴史

2類 歴史、地理、伝記

20 考古学

209 世界の歴史

21 日本の歴史

28 伝記

日本人

外国人

*別法 ; それぞれの活躍分野に収める

例 ; キュリー夫人→物理・化学、モーツァルト→音楽、フェアブル→昆虫図鑑

29 地理

29 世界の地理

国旗、国歌

291 日本の地理

郷土資料(別置)

3類 社会科学

公共サービス(364 社会保障、365 消費者問題、366 労働問題、369 社会福祉)

*以外は、380-387 日本の暮らし ; 10-15 心の問題へ

31 政治

32 法律

33-34 経済

35 統計→0類 レファレンスブックへ

- 36 仕事
 - 公共サービス
- 37 教育(学校)
- 375.49 性教育
- 375.72 図工・工作
- 38 風俗(風俗習慣、民俗学、民族学)
- 38 世界の暮らし・世界遺産
 - 国旗・国家
- 380-387 日本の暮らし・茶道・華道
- 388 民話
 - 日本の民話
 - ヨーロッパ・ロシアの民話
 - アンデルセン
 - グリム
 - 北米の民話
 - 中国・アジア・中近東の民話
 - 南半球の民話
- 39 戦争 → 別置
- 4 類**
- 40 自然科学総論
 - 科学者
- 41 算数、数学
- 40, 42, 43 自然科学全般、物理、化学
 - *小・中学校では、物理と化学は分かれていない
 - *41, 42, 43 は「目に見えない真理」
- 44 天文学
 - *41-44 は「命がないもの」
- 45 地学
 - 451 気象
 - 453 地震学、防災
 - 452, 454 地学
 - 455, 456 地学
 - 457 古生物(恐竜を含む)
 - 458, 459 地学
- 46 一般生物学(進化論や微生物を含む)
 - 生態系
- 47 植物
 - 470-472 植物図鑑
 - 473-476 菌類
 - 477-479 草・花、樹木・林業
- 48 動物
 - 480-481 動物図鑑
 - 482 動物誌

- 483 無脊椎動物
- 483-485 変温動物
- 484 軟体動物
- 484.9 棘皮動物
- 485 節足動物
- 486 昆虫
- 486.1-.2 昆虫図鑑
- 486.3 トンボ
- 486.4 カマキリ、バッタ、キリギリス、コオロギ
- 486.5 セミ
- 486.6 カブトムシ、ホタル
- 486.7 アリ、ハチ
- 486.8 チョウ
- 486.9 アブ・カ・ハエ
- 487 脊椎動物
- 487.4-.7 魚類
- 487.8 両生類
- 487.9 爬虫類
- 488 鳥類
- 489 哺乳類
- 489.2 単孔目(卵生) ; カモノハシ
- 489.3 有袋目 ; カンガルー、コアラ
- 489.4 食虫目 ; もぐら、コウモリ、なまけもの、ネズミ、リス、ウサギ
- 489.5 食肉目 ; とら、ひょう、ライオン、おおかみ、きつね、たぬき、くま、
パンダ、かわうそ、ラッコ、アザラシ
- 489.6 クジラ目 ; クジラ、イルカ
- 489.7 ゾウ目
- 489.8 蹄目 ; うま、サイ、イノシシ、ブタ、カバ、ウシ、やぎ、ひつじ、
トナカイ、キリン、ラクダ
- 489.9 霊長目 ; オランウータン、チンパンジー、ゴリラ
- 49 医学
- 人体の仕組み
- 497 歯科学
- 498.5 栄養学→596 食育

*47-49は「命があるもの」

5類

51-52 建築

518 ゴミ問題→519 環境問題

519 環境汚染→519 環境問題

518-519 環境問題(ゴミ問題、環境汚染)

53 機械工業

のりもの

核 → 別置(「核」、「戦争」、「郷土資料」の3つ)

- 54-58 工業・産業なので 60 工業・産業へ
*兵器は「戦争」(別置)
- 591-595 家庭科・手芸・ファッション
- 595.6 ダイエット
- 596 料理
食育
- 597 家庭科・手芸・ファッション
- 598 家庭科・手芸・ファッション
- 599 子育て
- 6類**
- 60 工業・産業
- 61-62 農業・園芸
米
- 63 蚕糸業→蝶へ
- 64 畜産
畜産→動物 48 へ
ペット→動物 48 へ
- 647 みつばち→アリ・ハチ 486.7 へ
- 65 林業→樹木・林業へ
- 66 水産業
- 669 製塩業→料理
- 67-68 商業・運輸
*乗り物関係はのりもの(列車、自動車、船、飛行機)へ
- 689 観光事業→仕事
- 69 マスコミ(通信は 007 コンピュータ、ネットワークへ)
*郵便、切手収集も含む
- 7類**
- 70-75 美術
*伝統工芸は日本の暮らしでもよい
- 726 コミック
*量が多ければ、内容により 0~9 分類する
- 728 書道→81 日本語
- 73-75 美術
*なにかを作るのに使う本は 375.72 工作へ、
- 754 木竹工芸
折り紙→折り紙・あやとり(別置)
- 760-768 音楽・邦楽
- 769 舞踏. バレエ(演劇・歌舞伎・能・狂言・ダンス)
- 773 能楽. 狂言→769 舞踏. バレエ
- 774 歌舞伎→769 舞踏. バレエ
- 775 演劇→769 舞踏. バレエ
- 777 人形劇→769 舞踏. バレエ
- 778 映画・アニメ

- 779 大衆演芸→769 舞踏. バレエ
- 798 室内娯楽
 - あやとり→折り紙・あやとり(別置)
- 779.13 落語→913.7 笑い話・落語・講談へ
- 779.3 奇術
 - 手品→794-798 囲碁・将棋・室内ゲームへ
- 780-785 スポーツ
- 786 アウトドア(登山を含む)
- 787 釣り
- 788 スポーツ
- 789 スポーツ
- 791-793 日本の暮らし
- 794-798 囲碁・将棋・室内ゲーム
 - クイズ・迷路・なぞなぞ
- 799 ダンス→769 演劇・歌舞伎・能・狂言・ダンスへ

8類 言語

- 807.9 ことば遊び→911 詩・ことば遊びへ
- 81 日本語
- 82-89 世界の言葉

9類 文学

- 91 日本文学
 - 911 詩・ことば遊び
 - 和歌、短歌、俳句、川柳
 - 近代詩、現代詩
 - 912 戯曲→769 演劇・歌舞伎・能・狂言・ダンスへ
 - 913.2-.5 古典文学(江戸時代まで)→81 日本語
 - 913.6 近代小説(明治以降)
 - ホラー
 - ミステリー
 - SF
 - ファンタジー
 - (少女小説)
 - 時代小説
 - 中国文学
- 現代古典(別置；日本語の隣)；明治から携帯電話が普及する 2004 年代以前
日本文学
- 宮沢賢治、新美南吉→(別置；国語の隣)
 - *昭和の文学全集、教科書にでてくる本なども同じ
- ヤングアダルト(小・中学生に読まれている現実を扱った小説)
- 小学校；日本の幼年文学
 - 外国の幼年文学
 - 中学校：児童文学
- ヤングアダルト(ティーンズ文庫)

92-99 外国文学

・小さな本(別置)

日本の小さな本

外国の小さな本

絵本の分類

- ・0類～8類の主題を持つ本は、各主題へ
- ・残りをタイトルの五十音順に
あ行、か行、さ行、は行、ま行、やらわ行
*シリーズものは、シリーズの初刊タイトルで

*出典

赤木かん子著「赤木かん子の図書館員ハンドブック：分類のはなし」埼玉福祉会, 2012.

出典: フリー百科事典『ウィキペディア
(Wikipedia)』

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%B5%A4%E6%9C%A8%E3%81%8B%E3%82%93%E5%AD%90>

【確認：年月日】

赤木 かん子 (あかぎ かんこ) は日本の児童文学評論家、アンソロジスト。本名は幹子 (読みはみきこ)。

長野県松本市に生まれる。1981年に法政大学文学部英文学科卒業。犬飼和雄に師事。その後、1984年に「本の探偵」としてデビュー。「本の探偵」とは、幼少時に読んだもののタイトルや作家名を忘れてしまった本を探し出す仕事のことであり、その当時は珍しい仕事であった(無償)。これを機に、児童文学の世界に入る。犬飼ゼミの同門である金原瑞人と隔週交替で朝日新聞の書評コラム「ヤングアダルト招待席」を執筆。日本の書店・図書館にヤングアダルト・ブックスを定着させた。児童文学、ミステリーの評論、子どもの文化の研究など。図書館を中心に日本各地での講演活動も多い。

図書館の改善運動にも積極的で、近年は特に小中学校の図書館の活性化に努めている。

引用文献

¹赤木かん子著『赤木かん子の図書館員ハンドブック：分類のはなし』埼玉福祉会, 2012.

²「イラスト分類シール」

https://saifuku.com/web_catalog/sogo201905/index.html

【確認：2019年9月20日】

³前掲1) p.62.

⁴前掲1) p.81.

⁵前掲1) p.7.

⁶「図書館情報学」という学問分野が、レファレンスブックに収束する論理性はないが、一般的に、学校図書館において児童生徒たちが、「図書館情報学」分野の資料を利用することは考えにくい。司書教諭、学校司書が業務用として使用するNDCなどのツール類や学校図書館関係の資料などは、業務資料として、別置されるであろう。本論の本筋からは外れるので、これ以上の論述を控える。

⁷前掲1) p.52.

⁸エンタテイメント資料の例示に、『ギネスブック』、『ムー大陸はあった』を示している。

⁹以下、「620 園芸」、「630 蚕糸業」、「640 畜産業」、「650 林業」等においても同様である。

¹⁰前掲1) p.54.

¹¹前掲1) p.54.

¹²赤木は、「宗教系の学校なら別ですが、普通の小・中学校ならこれで十分です。」と述べる。前掲1) p.55.

¹³前掲1) p.56.

¹⁴前掲1) p.56-57.

¹⁵前掲1) p.57.

¹⁶高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 地理歴史編，平成30年7月，文部科学省

「地理歴史編」は、次の4区分である。

地理探究、歴史総合、日本史探求、世界史探求

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/28/1407073_03_2_1.pdf

【確認：2019年9月20日】

¹⁷中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 「社会編」

平成29年7月，文部科学省

科目名は「社会」であるが、内容は地理的分野、歴史的分野、公民的分野で構成されている。

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387018_003.pdf

【確認：2019年9月20日】

¹⁸前掲1) p.58.

¹⁹前掲1) p.58.

²⁰前掲1) p.58.

²¹前掲1) p.58.

²²前掲1) p.59.

²³もり・きよし原編，日本図書館協会分類委員会改訂『日本十進分類法新訂10版』日本図書館協会，2014.

²⁴NDC9版においても、若干の字句の相違はあるが、本筋の個々の主題の下に収めるジャンルは変わらない。

²⁵前掲1) p.60.

²⁶前掲1) p.60.

²⁷前掲1) p.61.

²⁸イラスト分類シールの一覧に「科学者」のシールはない。前掲2)、参照。紛らわしい例示である。

²⁹例えば、古代ギリシア、古代ローマの政治家を想起すれば、一目瞭然である。

³⁰前掲1) p.62.

³¹前掲1) p.62.

³²前掲1) p.63.

³³前掲1) p.63.

³⁴イラスト分類シールには、「性教育」の分類シールがあるのみである。前掲1)での言説展開と対応していない。

³⁵前掲1) p.65.

³⁶前掲1) p.66.

³⁷国立民族学博物館を想起すれば、自明である。

³⁸コトバンク

<https://kotobank.jp/word/%E6%B0%91%E4%BF%97%E5%AD%A6-140105>

【確認：年月日】

民俗学 みんなぞくがく (folklore; Volkskunde)

民俗文化を内側から明らかにしようとする学問。現代生活のなかに伝承される文化がいかにかに表現され、いかなる形で存在し、またどのように推移してきたかを、同国人的、同時代人的な感覚のなかで見きわめ、さらにそれぞれの理由を追究しようとする。フォークロアの語は、1846年イギリスの好古家 W. トムズが用いて以来、そのような民間伝承による文化遺産とそれを研究する学問をさす言葉として広く各国語に採用された。イギリスでは、初めヨーロ

ッパ諸国の農民の間に伝わる慣習も、非ヨーロッパ地域の民族のそれをも同列に民俗学として扱ってきたが、フランス、ドイツなどヨーロッパ諸国では、自地域の民族の調査研究を民俗学、それ以外の民族の調査研究を民族学と区別し、あるいは単数民族の研究を民俗学、複数民族の比較研究を民族学と呼びならわしてきた。日本でも同じ傾向がみられる。アメリカなど新移住の国では、独自の文化伝統が浅かったため、民謡など口承文芸の研究に主眼をおき、ヨーロッパ諸国や日本の民俗学で扱っているような広い分野の研究は、文化人類学の名のもとに行われることが多い。それぞれの国情によって、研究分野や対象に若干の相違がある。

出典 ブリタニカ国際大百科事典 小項目事典
ブリタニカ国際大百科事典

39 前掲 1) p.66.

40 世界の民話を4区分した事由にあげている「スーホの白い馬」は、次のようなモンゴルの民話である。

「スーホの白い馬」はモンゴルの民族楽器である馬頭琴（モリンホール）の由来にまつわる話。日本で初めて公表されたのは1961年である。福音館書店が発行している月刊絵本『こどものとも』の1961年10月号として発行された『スーホのしろいうま』（大塚勇三・やく、赤羽末吉・え）がそれである。

41 前掲 1)において、「41 自然科学」の類だけで、24p.に及ぶ紙数を費やしている。

42 前掲 1) p.22-23.

43 前掲 1) p.23.

44 前掲 1) p.24-25.

45 前掲 1) p.30-31.

46 前掲 1) p.32-34.

47 前掲 1) p.35-37.

48 前掲 1) p.35.

49 前掲 1) p.40-41.

50 前掲 1) p.44

51 前掲 1) p.68.

52 前掲 1) p.68.

53 前掲 1) p.49.

54 前掲 1) p.69.

55 前掲 1) p.69.

56 前掲 1) p.70

57 前掲 1) p.70

58 前掲 1) p.71.

59 前掲 1) p.72.

60 前掲 1) p.72.

61 前掲 1) p.72.

62 前掲 1) p.73.

63 前掲 1) p.73.

64 前掲 1) p.73.

65 前掲 1) p.74.

66 前掲 1) p.74. なお、論理根拠は示されていない。「赤木ワールド」の中での「メルヘン」かもしれない。

67 前掲 1) p.75.

68 前掲 1) p.75.

69 前掲 1) p.75.

70 前掲 1) p.75.

71 前掲 1) p.76.

72 前掲 1) p.78.

73 「コトバンク」

<https://kotobank.jp/word/%E7%AB%A5%E7%94%BB-579661>

[確認：2019年9月20日]

童画（読み）ドウガ

デジタル大辞泉の解説

1 子供のかいた絵。児童画。

2 大人が、子供のためにかいた絵。

74 前掲 1) p.79.

75 前掲 1) p.80.

76 前掲 1) p.80.

77 『日本十進分類法 新訂9版』本表編』日本図書館協会, 1995, p.361.

78 『日本十進分類法 新訂9版 関連索引編』日本図書館協会, 1995, p.49.

79 前掲 1) p.82.

80 前掲 1) p.82.

81 前掲 1) p.82.

82 「遊猟」の意味は猟をして楽しむこと。

83 「射倖」とは、偶然に得られる成功や利益を当てにすること。

84 前掲 1) p.91.

85 前掲 1) p.92-93.

86 前掲 1) p.95.

87 前掲 1) p.99.

88 前掲 1) p.98.

89 例示として、宮沢賢治、新美南吉を示している。

90 前掲 1) p.101.

著者も、「ライトノベルと呼ばれる小説群には明確な定義はなく、生産拡大した結果、一般小説と混じりあって、境界はますますぼやけつつあります。」と述べている。

ティーンズ文庫は、出版社の企画出版から明確であるが、一般現代文学から YA 資料を明確な線引きで抜き出すのは困難である。

⁹¹ 前掲 1) p.106.

⁹² 前掲 1) p.107.

なお、「絵本やらわ行」と集約している行がある。実践に基づいた文献的根拠であろう。

⁹³ 閑話休題。

『HUFFPOST』

NEWS

2018年08月09日 14時24分 JST | 更新 2018年08月09日 14時31分 JST

「幻の世界遺産」浦上天主堂は、なぜ撤去されたのか。長崎原爆の日に振り返る。

https://www.huffingtonpost.jp/2018/08/08/urakami-church-history_a_23498823/

[確認：2019年9月20日]

⁹⁴ 平成28年度「学校図書館の現状に関する調査」結果について（概要）

平成28年10月13日

文部科学省児童生徒課

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/dokusho/link/_icsFiles/afieldfile/2016/10/13/1378073_01.pdf

[確認：2019年9月20日]

⁹⁵ NEWS 2018/05/10

”目でも指でも読める点字”を知ってますか？

「Braille Neue」が目指すユニバーサルな社会”

<https://soar-world.com/2018/05/10/braille-neue/>

[確認：2019年9月20日]

⁹⁶ 前掲 1)。

⁹⁷ 赤木かん子「図書館で本にたどり着きやすくするには」（特集：情報をさがしやすくするには）『情報の科学と技術』68(11), 2018.11, 555-558.

⁹⁸ 赤木かん子「だれでも使える図書館を作る」『図書館雑誌』113(8), p.506-508, 2019.8.

[受理：2019年9月28日]